

BATH MEDICINE COMPOSITION AND ITS USE

特許公報番号 JP9002938 (A)
公報発行日 1997-01-07
発明者: FURUHATA MOTOKI; YASUDA MINORU; YANO SHINGO
出願人 TSUMURA & CO
分類:
一国際: A61KB/96; A61K8/00; A61K8/25; A61K8/97; A61K36/18; A61P31/04; A61Q19/10;
A61KB/96; A61K8/00; A61K8/19; A61K36/18; A61P31/00; A61Q19/10; (IPC1-
7); A61K35/78; A61K7/50; A61K7/00
一欧州:
出願番号 JP19950151418 19950619
優先権主張番号: JP19950151418 19950619

要約 JP 9002938 (A)

PURPOSE: To obtain a bath medicine composition which is excellent in antimicrobial action on the alkaline side and in amelioration of itching and dry skin. CONSTITUTION: This bath medicine composition contains herbs having antimicrobial properties or their extracts in an amount of 0.01-100ppm based on the bath water calculated as the essence, and contains an alkaline agent in an amount of 0.5-150ppm based on the bath water, moisturizing agent formulated to give this composition. The antimicrobial herbs are herbs showing antimicrobial effect against bacteria, fungi or the like and selected from the group of Magnoliae cortex, sage, Caryophylli Flos, Eriobotryae Folium, Artemisiae Capillaris Herba, Houttuyniae Herba, Atractylodis Lanceae Rhizoma, thyme, Capsici Fructus, Lithospermi Radix and Juniperus communis.; The alkaline agent means an inorganic salt that can adjust the 0.01wt.% aqueous solution of the bath medicine composition to 7-9 in pH, when it is formulated to the composition, and selected from sodium hydrogen carbonate, sodium carbonate, sodium sesquicarbonate and sodium metasilicate. When necessary, oil components, inorganic salts, organic acids, surfactants, vitamins, protease and the like are appropriately formulated to give this bath medicine composition in the forms of powder, granule, tablet or solution.

esp@cenet データベースから供給されたデータ — Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-2938

(43)公開日 平成9年(1997)1月7日

(51)Int.Cl. ^a	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 7/50			A 6 1 K 7/50	
7/00			7/00	K
// A 6 1 K 35/78	AD Z		35/78	AD Z C

審査請求 未請求 請求項の数6 O.L (全5頁)

(21)出願番号 特願平7-151418	(71)出願人 株式会社ツムラ 東京都中央区日本橋3丁目4番10号
(22)出願日 平成7年(1995)6月19日	(72)発明者 古畑 基樹 静岡県藤枝市築地392 株式会社ツムラ内
	(72)発明者 安田 実 静岡県藤枝市築地392 株式会社ツムラ内
	(72)発明者 谷野 伸吾 静岡県藤枝市築地392 株式会社ツムラ内
	(74)代理人 弁理士 平木 祐輔 (外2名)

(54)【発明の名称】 沐用剤組成物及びその使用方法

(57)【要約】

【構成】 抗菌性を有する薬用植物又はそのエキスとアルカリ剤を含有する浴用剤組成物、及び抗菌性を有する薬用植物又はそのエキスを浴湯に対してエキス分として0.01~100ppm、アルカリ剤を浴湯に対して0.5~150ppmになるように添加することを特徴とする前記浴用剤組成物の使用方法。

【効果】 本発明の浴用剤組成物は、アルカリ側で抗菌作用に優れた浴用剤組成物である。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 抗菌性を有する薬用植物又はそのエキスとアルカリ剤を含有する浴用剤組成物。

【請求項2】 抗菌性を有する薬用植物がコウボク、セージ、チョウジ、ビワヨウ、インチソウ、ジュウヤク、ソウジュツ、タイム、トウガラシ、シコン及びトショウからなる群から選ばれる1種又は2種以上である請求項1記載の浴用剤組成物。

【請求項3】 抗菌性を有する薬用植物がインチソウ、ジュウヤク、ソウジュツ、タイム、トウガラシ、シコン及びトショウからなる群から選ばれる1種又は2種以上である請求項2記載の浴用剤組成物。

【請求項4】 抗菌性を有する薬用植物がシコン及びトショウである請求項3記載の浴用剤組成物。

【請求項5】 アルカリ剤が炭酸水素ナトリウム、炭酸ナトリウム、セスキ炭酸ナトリウム及びメタケイ酸ナトリウムからなる群から選ばれる1種又は2種以上であり、浴湯のpHを7を超えて、9以下とする量配合されていることを特徴とする請求項1記載の浴用剤組成物。

【請求項6】 抗菌性を有する薬用植物又はそのエキスを浴湯に対してエキス分として0.01～100ppm、アルカリ剤を浴湯に対して0.5～150ppmになるように添加することを特徴とする請求項1記載の浴用剤組成物の使用方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、浴用剤組成物、更に詳しくはかゆみやカサカサの改善に優れた浴用剤組成物及びその使用方法に関する。

【0002】

【従来の技術】 日本独自の入浴習慣として、家族全員が同じ浴湯に入浴しているが、一人が白癬菌に感染していると、家族に感染の懼れがあり、衛生上好ましいものではない。また、近年アトピー性皮膚炎が話題になっているが、アトピー性皮膚炎の患者は、皮膚のバリア機能が低下しており、皮膚常在菌のフローラも減少し、搔き傷からの感染症も多く、抗菌性のある浴用剤が求められていた。

【0003】 従来より、浴湯を酸性にすることで、菌類の活性を抑制しようとする試みがなされているが、皮膚の柔軟化作用がなく、皮膚の柔軟化作用のあるアルカリ側での抗菌作用のある浴用剤が望まれていた。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 本発明はアルカリ側で抗菌作用に優れた浴用剤組成物及びその使用方法を提供することを課題とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明者は、抗菌性のある薬用植物又はそのエキスとアルカリ剤とを配合するこ

とにより、アルカリ側で抗菌作用に優れることを見出し本発明を完成した。即ち、本発明は、抗菌性を有する薬用植物又はそのエキスとアルカリ剤を含有する浴用剤組成物、及び抗菌性を有する薬用植物又はそのエキスを浴湯に対してエキス分として0.01～100ppm、アルカリ剤を浴湯に対して0.5～150ppmになるように添加することを特徴とする前記浴用剤組成物の使用方法である。

【0006】 以下、本発明を詳細に説明する。本発明において、抗菌性を有する薬用植物とは、細菌、カビ等に抗菌活性を示す薬用植物をいい、例えばコウボク、セージ、チョウジ、ビワヨウ、インチソウ、ジュウヤク、ソウジュツ、タイム、トウガラシ、シコン、トショウが挙げられ、これらは単独で又は2種以上を併用して用いられる。

【0007】 抗菌性を有する薬用植物としては、特に、インチソウ、ジュウヤク、ソウジュツ、タイム、トウガラシ、シコン、トショウを単独で又は2種以上を併用して用いることが好ましく、シコン、トショウを単独で又は併用して用いることが更に好ましい。また、本発明において、アルカリ剤とは、本発明の浴用剤組成物中に配合したときに、該組成物の0.01重量%水溶液のpHを7を超えて、9以下とするとができる無機塩類をいい、例えば炭酸水素ナトリウム（重曹）、炭酸ナトリウム、セスキ炭酸ナトリウム、メタケイ酸ナトリウムが挙げられ、これらは単独で又は2種以上を併用して用いられる。

【0008】 アルカリ剤が皮膚の柔軟化を促し、角質を溶出することで、抗菌性を有する薬用植物が皮下の菌類に作用しやすくなり、抗菌作用が増大されると考えられる。本発明に用いる抗菌性を有する薬用植物は、切栽培を袋状物に入れて、用いても構わないが、浴湯の汚れを考えると、エキスを得て、その乾燥粉末を浴用剤に配合することが望ましい。

【0009】 薬用植物エキスを得るための溶媒としては、水と混合でき、かつ油溶性成分を抽出しうる有機溶媒及び又は水を用いることが好ましい。特に水：エタノールの重量比が80：20～20：80の水-エタノール混合溶媒が好ましい。抗菌性を有する薬用植物の浴湯に対する配合比としては、エキス分として、0.001～100ppmが好ましい。前記下限未満であると抗菌効果が期待できず、前記上限を超えると製剤においてオリ（濁）の発生が認められるなどして好ましくない。0.01～100ppmが更に好ましい。

【0010】 アルカリ剤の浴湯に対する配合比としては、0.5～150ppmが好ましい。前記下限未満であると皮膚柔軟化効果が期待できず、前記上限を超えるとアルカリ性に偏りすぎるため、安全性及び浴槽に対するかん石の付着などの面で好ましくない。10～150ppmが更に好ましい。抗菌性を有する薬用植物エキス

分とアルカリ剤の製剤中の相対比率としては、0.0
1:150~100:0.1が好ましい。

【0011】また、アルカリ剤の製剤中の配合量並びにアルカリ剤の種類及び組み合わせは、所定量の浴用剤組成物を浴湯に添加した際に、浴湯のpHが7を超える、9以下になるようにすることが好ましく、浴湯のpHが7.5~8.5になるようにすることが更に好ましく、8~8.5になるようにすることが最も好ましい。更に、本発明の浴用剤組成物には、前記成分の他に、必要に応じて、無機塩類、油性成分、有機酸類、界面活性剤、ビタミン類、蛋白分解酵素、その他の成分を添加することができる。

【0012】無機塩類としては、硫酸ナトリウム、硫酸マグネシウム、塩化ナトリウム、塩化アンモニウム、硝酸ナトリウム、硝酸カリウム、硝酸カルシウム、硫酸鉄、硫酸アルミニウム、チオ硫酸ナトリウム、塩化カリウム、硫化カリウム、ミョウバン、無水ケイ酸等が挙げられる。油性成分としては、例えば、

1) 脂肪類

大豆油、ヌカ油、ホホバ油、アボガド油、アーモンド油、オリーブ油、カカオ脂、ゴマ油、パーシック油、ヒマシ油、ヤシ油、ミンク油、牛脂、豚脂等の天然油脂、これらの天然油脂を水素添加して得られる硬化油及びミリスチン酸グリセリド、2-エチルヘキサン酸グリセリド等の合成グリセリド、ジグリセリド等

2) ロウ類

カルナウバロウ、鯨ロウ、ミツロウ、ラノリン等

3) 炭化水素類

流動パラフィン、ワセリン、パラフィン、マイクロクリスタリンワックス、セレシン、スクワラン、ブリストン等

4) 高級脂肪酸類

ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘン酸、オレイン酸、リノール酸、リノレン酸、ラノリン酸、イソステアリン酸等

5) 高級アルコール類

ラウリルアルコール、セチルアルコール、ステアリルアルコール、オレイルアルコール、コレステロール、2-ヘキシルデカノール等

6) エステル類

オクタン酸セチル、乳酸ミリスチル、乳酸セチル、ミリスチン酸ミリスチル、パルミチン酸イソプロピル、アジピン酸イソプロピル、ステアリン酸ブチル、オレイン酸デシル、イソステアリン酸コレステロール等

7) 精油類

8) シリコーン油類

が挙げられる。

【0013】有機酸類としては、安息香酸、コハク酸、リンゴ酸、フマル酸、酒石酸、クエン酸、ピロリドンカルボン酸、グリシン、アラニン、バリン、ロイシン、イ

ソロイシン、セリン、トレオニン、フェニルアラニン、チロシン、トリプトファン、시스チン、システィン、メチオニン、プロリン、ヒドロキシプロリン、アスパラギン酸、グルタミン酸、アルギニン、ヒスチジン、リジン、コウジ酸及びその誘導体等が挙げられる。

【0014】界面活性剤としては、

1) 非イオン界面活性剤

グリセリン脂肪酸エステル、プロピレングリコール脂肪酸エステル、ソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、テトラオレイン酸ポリオキシエチレンソルビット、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンアルキルエーテル、ポリエチレングリコール脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンヒマシ油、ポリグリセリン脂肪酸エステル等

2) 陰イオン界面活性剤

α -オレフィンスルホン酸ナトリウム、ラウリル硫酸ナトリウム、セチル硫酸ナトリウム、ポリオキシエチレンラウリル硫酸ナトリウム、スルホコハク酸ラウリル二ナトリウム等

3) 両性界面活性剤

カルボキシペタイン型、アミノカルボン酸、スルホベタイン型等

4) 陽イオン界面活性剤

が挙げられるが、安全性の面から非イオン界面活性剤が好ましい。

【0015】ビタミン類としては、ビタミンA、ビタミンB、ビタミンC、ビタミンD、ビタミンE、ビタミンF、ビタミンK、ビタミンP、ビタミンU、カルニチン、フェルラ酸、 γ -オリザノール、リポ酸、オロット酸及びその誘導体等が挙げられる。蛋白分解酵素としては、ペプシン、トリプシン、キモトリプシン、カテプシン、パパイン、ブロメライン、フィシン及び細菌酵母、カビ由来のプロテアーゼ等が挙げられる。

【0016】その他の成分としては、イオウ、鉱砂、湯の花、中性白土、卵黄末、イリ糠、雲母末、脱脂粉乳、海藻エキス、香料、色素等が挙げられる。本発明の浴用剤組成物の剤形としては、粉末状、顆粒状、錠剤状、液状のいずれにも限定されない。

【0017】

【実施例】以下、実施例及び比較例により本発明を更に具体的に説明するが、これらは本発明の範囲を何ら限定するものではない。なお、各浴用剤組成物は、浴湯200Lに対し40gを使用した。また、各薬用植物は抽出液(抽出溶媒: 50w/w%水-エタノール混合溶媒)から賦形剤を用いずに乾燥化させた100%エキスを意味し、各成分の配合割合は重量%を意味する。

【0018】(実施例1~6及び比較例1~8)表1に示した処方に従い、製剤を調製し、パネラー(10名)による官能評価試験を行った。表1中の「なめらかさ」

についての評価の判定基準は、パネラーに5点満点(5段階)で判定してもらい、パネラー10名の平均点が1点以上2点未満が×、2点以上3点未満が△、3点以上4点未満が○、4点以上が◎とした。

【0019】また、表1中の記号又は略号の意味を以下に示す。

*1：製剤に澱の発生が認められた。

*2：浴槽にかん石の発生が認められた。

PVA：ポリビニルアルコール

PEG：ポリエチレンジコール

結果を表1及び2に示す。

【0020】

【表1】

*

	実施例						比較例					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
2291粉末	0.005						0.005					0.001
104'1244粉末	50						50					
474'3944粉末		0.005										
704'4144粉末			50									
774'3944粉末				0.2								
774'3944粉末					0.01							
ナトリウム						2						
硫酸							30					
亜硝	23	35	72				23	39	98	40	98	50
重曹	55			12	45				0.03	12	30	
炭酸Na	20	12.5	5	36	25	26				36	30	25
Na ₂ HCO ₃				20						0.01	60	
PPG												
PVA												
PBC							1					
無水ケイ酸								0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
可溶化剤												
色素・香料												
糊形	粉末	粉末	粉末	粉末	顆粒	糊剤	粉末	粉末	粉末	粉末	粉末	粉末
pH(0.01X)	7.8	7.1	7.2	9.0	8.0	7.8	7.0	6.7	7.0	9.0	8.7	8.4
なめらかさ	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	○···

【0021】

【表2】

	実施例1と比較例1との差		
	実施例1 の方	比較例1 の方	どちらとも言えない
かゆみが改善した	6	1	3
カサカサが改善した	7	1	2

【0022】表1及び2に示す結果から明らかなように、本発明の浴用剤組成物は、肌に対して優れた柔軟化作用を示すと共に、カサカサの肌や、かゆみに対して優

10

れた改善効果を示した。

(実施例7) トウガラシ刻み30重量部、芒硝15重量部、重曹40重量部、炭酸ナトリウム10重量部と色素・香料を適量加え、均一に混合し、1回使用量50gを不織布に入れ浴用剤を調製し、前記と同様の官能評価試験を行った。

【0023】その結果、かゆみが抑制され、かつ高いしつとり感が得られた。

【0024】

【発明の効果】本発明の浴用剤組成物は、アルカリ側で抗菌作用に優れた浴用剤組成物である。